

# 琉球大学学術リポジトリ

高等学校「家庭情報処理」の指導能力の養成 一大  
学教育における指導実践を通して一

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学教育学部 公開日: 2007-07-18 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 国吉, 真哉, 國吉, 真哉 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="http://hdl.handle.net/20.500.12000/1000">http://hdl.handle.net/20.500.12000/1000</a>

# 高等学校「家庭情報処理」の指導能力の養成 — 大学教育における指導実践を通して —

国 吉 真 哉\*

Training of Teaching Ability on "Home Information Processing" in High School  
— Through Practical Instructions in University Education —

Sanechika KUNIYOSHI\*

## 1. はじめに

高等学校「家庭情報処理」は、①社会における情報化の進展と情報の意義や役割の理解、②情報処理に関する知識と技術の習得、③生活産業の各分野で情報及び情報手段を活用する能力と態度の育成を目標とした家庭に関する各学科における情報に関する基礎科目として位置付けられている<sup>1)</sup>。

科目の内容構成は、①高度情報通信社会と生活産業、②コンピュータの仕組みと情報処理、③生活産業におけるコンピュータの活用の3項目である。特に科目内容の②と③については、「実習を中心として扱うこと」<sup>2)</sup>とされているように、「家庭情報処理」を担当する家庭科教諭においては、実践的な指導能力も要求される。

本学部学校教育教員養成課程家政教育専修では、「家庭情報処理」に関する指導能力の養成に向けて、専門科目の「生活情報処理」および「家庭工学」の授業を開設している。両科目は免許法施行規則に定める科目区分の「家庭電気・機械及び情報処理」に対応する授業科目として位置付けており、本専修3年次の履修科目である。

「生活情報処理」は、演習を基本とした135分の授業科目(1単位)であり、特に高等学校「家庭情報処理」の科目内容の②と③を中心とした実践的な指導能力の養成を目的としている。

そこで、本稿は高等学校「家庭情報処理」の指

導能力の養成に向け、大学教育における実習内容の充実を図るため、「生活情報処理」の指導実践を通して考究することを目的とする。

## 2. 「生活情報処理」の授業目標および計画

### 2-1 「家庭情報処理」の指導に求められる能力

高等学校「家庭情報処理」の科目の指導内容をみると、前述の②コンピュータの仕組みと情報処理については、コンピュータの仕組みおよびコンピュータによる情報処理が示され、また、③生活産業におけるコンピュータの活用については、情報の収集、処理、発信およびコンピュータシステムの活用が示されている<sup>3)</sup>。

そうした指導内容を踏まえると、高等学校「家庭情報処理」の科目を担当する家庭科教諭に求められる授業実践能力としては、①意思伝達能力、②情報処理能力、③情報収集能力、④情報発信能力、⑤プレゼンテーション能力の5つに集約されよう。

そこで、高等学校「家庭情報処理」の指導能力の養成に向け、大学教育における「生活情報処理」の授業においては、前述した5つの能力養成を柱とした指導実践を行うこととした。

### 2-2 「生活情報処理」の授業目標および計画

本授業(15週)では、高等学校「家庭情報処理」の指導能力の養成に向け、実習目標と授業配分を

\* 家政教育教室

次の通り設定した。

〔実習1〕意思伝達能力の養成

- ・実習目標：電子メール（以下、メール）の送受信並びに添付ファイルの開封および添付ファイルの送信ができること。
- ・実習時間：原則として全授業時間

〔実習2〕情報処理能力の養成

- ・実習目標：データベースの構築並びに画像データの取り込みができること。
- ・実習時間：3週

〔実習3〕情報収集能力の養成

- ・実習目標：インターネット上のホームページ（以下、HP）から、必要な情報が収集できること。
- ・実習時間：3週

〔実習4〕情報発信能力の養成

- ・実習目標：インターネット上に自己HPを開設し、更新（運営）ができること。
- ・実習時間：5週

〔実習5〕プレゼンテーション能力の養成

- ・実習目標：プレゼンテーション用のアプリケーションソフトウェアを活用して発表用原稿を作成し、発表が行えること。
- ・実習時間：4週

以下、各実習における具体的な指導実践を通して、実習内容に関する考察を行う。

### 3. 意思伝達能力の養成

#### 3-1 「メールで設問」の導入

授業実践の一つの試みが、「メールで設問」である。「メールで設問」とは、Microsoft Excelに関する基本的な知識を確認するため、添付ファイルとして受講学生へメール送信する設問ファイル（Excelファイル形式）のことである。

「メールで設問」の導入目的は、①メールの送受信能力を身につける、②出欠の確認、③Excelに関する基本的知識を身につけることである。

第1に、高度情報社会の今日、メールの送受信能力は必要不可欠のものであり、そうした社会への対応能力を養成するため、毎回授業の始めに導入している。それは、単なるメールだけでなく、必要な文書を添付ファイルとして送信できる能力

についても身につけさせることを目的とするものである。

第2に、情報教育におけるメールの送受信は、通常の授業における出欠の呼応に相当する最も基本的な行為であるとの認識のもと、設問の正誤率に関係なく出席点として取り扱うこととした<sup>(1)</sup>。

第3に、文書作成ソフトに加え、表計算ソフトの基本操作能力は、現代社会において不可欠である。特に、学校教育教員養成課程の学生においては、沖縄県の教員候補者選考試験の二次試験で、パソコン実技試験（Excel97・2000）が課せられていることから、その習熟が求められる。そこで、「メールで設問」で取り扱う内容については、Excelの基本操作や関数式などに関するものとした（図1）。

受講生に対しては、第1回目の授業でのオリエンテーションの際、上述の「メールで設問」の導入目的を説明し、授業で実践した。

第6回 メールで設問									
設問。下記の手順に従って成績表を完成させて下さい									
①各生徒の合計点について、関数式を用いて求める									
②各科目の平均点について、関数式を用いて求める。 (小数点第1位まで)									
③各生徒の合計点について、関数式を用いてクラス中での総合順位を求める。									
④野線を引き、表を完成させる。									
⑤項目のタイトルについて、「中央揃え」を行う。									
⑥「年」「組」「番号」のデータについて「中央揃え」を行う。									
年	組	番号	英語	数学	国語	理科	社会	合計	順位
2	3	1	68	92	60	74	95		
2	3	2	92	65	78	70	70		
2	3	3	74	68	95	90	82		
2	3	4	100	78	70	100	85		
2	3	5	80	66	82	95	62		
2	3	6	70	74	85	70	96		
2	3	7	62	70	69	82	63		
2	3	8	72	90	81	85	95		
2	3	9	89	100	98	82	76		
2	3	10	78	72	85	72	60		
2	3	11	60	80	62	89	62		
2	3	12	62	80	80	76	76		
2	3	13	88	95	85	100	85		
2	3	14	63	85	76	58	62		
2	3	15	95	75	92	70	80		
平均点									

図1 「メールで設問」の実践例

#### 3-2 指導実践

受講生は、まず授業へ出席すると、授業者が事前に送信したメールを確認し、添付した「メール

で設問」を開いて解答し、解答後は添付ファイルとして返信する。その時間は概ね10分とし、その後解答を約5分で行っている。設問の難易度は、前回の正解率を確認し、段階的に高くしていくよう試みた。

受講生の3年次は、1年次で本学共通教育の「情報科学演習」を受講していることもあり<sup>(2)</sup>、Excelに関する基本的知識を有しているが、導入当初はファイルの添付ができない学生もいた。

授業の開始当初は、授業時間前に実習室に来て、ネットサーフィンを楽しむ学生が大部分を占めていたが、「メールで設問」を導入した3回目の授業以降、まずメールを確認する習慣がついたことは一つの成果である。また、授業時間前から設問を解き始める学生も出始め、授業に積極的に取り組む姿勢が見られるようになった。その背景には、沖縄県教員候補者選考試験の二次試験で実施されるパソコン実技試験を想定した設問形式で出題したことが学生の関心につながったと思われる。

一方、「メールで設問」の解答の返信メールには、「問題を解く前に、メールを見ることに時間がかかってしまいました。そのため、問題をほとんど解く時間がありませんでした。」「情報科学演習の時に理解していなかったので、今すごく苦勞しています。」「難しかったです。」「毎週やっているのに、なかなか覚えられません。でもずっと続けていたらいつか身につく、と信じてこれからも頑張ります。」といった設問内容の難しさを表現したり、「初めて自分で全部解きました。うれしいー。」「成長しました。」のように自己の成長を伝えてくるなど、設問や授業に対する学生の感想があわせて寄せられた。

さらに、「第3回 メールで設問」以降の返信メールには、「昨日は台風のお陰で、沢山眠れたので快調です!」「最近、恐ろしい交通事故の跡を目にしました。雨の日の車の運転には、気を付けなくてはと実感しました。」「週末に家族で東京に行ってきた。東京は人が多くて本当に大変でした。やはり私は田舎の方が合ってるみたいです。」「日曜日に北谷に行ったら、スベリダイ付のプールがオープンしていました。来週絶対行きます!」「うちのネコ、最近帰ってきません。心配です」な

ど、学生の日頃の生活状況や心境を書き始めてきた。

「教師が学生の日頃の生活を知ることによって、学生も先生との距離を近く感じるらしく、そのことが学生の講義に対する動機づけを高める」<sup>(4)</sup>と述べているように、意思伝達能力の養成を主目的として授業に導入した「メールで設問」は、授業の回数を重ねる毎に、生徒と教師とのインターアクションを創出する手段としても大きく寄与することができたといえる。

## 4. 情報処理能力の養成

### 4-1 実習内容

#### ① データベースの構築

本実習は、「生活情報処理」の最初の実習でもあることから、文書作成および表作成に関する基礎的技術の再確認を含めて実習を行い、データベースの構築は、表計算ソフト（Microsoft Excel）を使用し、必要な情報が検索できる状態まで仕上げることにした。

データベースの実習教材としては、家政教育専修の過去の卒業研究論文<sup>(3)</sup>を取り上げ、発表年度や研究タイトルなどに関する検索が可能なフィルタ設定まで行うことを本実習の到達目標とした。

#### ② 画像データの取り込み

本実習では、既存の写真（ポジ）をスキャナで取り込みデジタル情報化すること、並びにデジタルカメラで撮影した画像をコンピュータに取り込む実習を行うことにした。

### 4-2 指導実践

#### ① データベースの構築に関する実習

受講生一人あたりのデータ入力サンプル数は、約60サンプル（4～5年度分）を割り当てた。1サンプルのデータ入力項目は、「年度」「No.」「研究タイトル」「学生」「指導教官」の5項目とした。実習時間は2週を割り当てた。

各受講生は、2週目の前半までに割り当てたサンプルデータを設定した様式に基づいてデータベースの入力を終了した。後半の時間からは、各項目に関する検索が可能なフィルタ設定を行い、デー

データベースを完成させることができた。

その後、データベース構築の利点を体感してもらうため、完成させたデータベースを実際に使用する時間を与えた。すると、学生はフィルタ条件として「指導教官」で特定の教官名を入力したり、「研究タイトル」に『菓子』の単語を含む論文を検索するなど(図2)、入手したい情報を検索・収集し始めた。

本家政教育専修では、3年次後期から家政学演習<sup>(4)</sup>の授業科目(ゼミ)の登録が行われることもあり、3年次前期の本授業で過去の卒業研究に関するデータを実習教材として使用したことで、学生の関心を持続させることができたと思われる。

教育学部 家政教育専修(家政学科)卒業研究一覧

年度	No	研究タイトル	学生	指導教官
1989	7	和洋生菓子の衛生学的研究	板井暁美	東盛キヨ子
1990	2	包装食品の衛生学的研究 - 沖縄県産土産用菓子について -	福永博子	東盛キヨ子
1994	11	沖縄と長崎の菓子の比較研究 - 琉球菓子と長崎の中華菓子・兩重菓子を中心に -	酒井かおり	金城須美子
1996	11	蒸し菓子の賞味期限の検討	新城聖子	東盛キヨ子
1996	12	揚げ菓子の賞味期限の検討	玉城宏美	東盛キヨ子
2000	1	近世沖縄の菓子の研究「御菓子井万例帳」にみる系譜および日本の菓子との関連性について	豊比久優	金城須美子

図2 受講生が作成したデータベース  
 (『菓子』を含む研究タイトルの検索結果)

実習時間(2週)に対する割り当てサンプル数について考察すると、全受講生が実習時間内に割り当てたデータ入力作業を終了したが、入力データの見直しをする時間が取れなかった。

データベースの効果的な構築実習並びに検索実習を行うためには、一定程度のサンプル数が必要となる。しかし、入力データを検証した結果、全サンプル数(343件)に対する誤入力サンプル数(114件)の割合は33.2%と高く、今後は入力データの見直し時間を考慮したサンプル数の設定が必要である。

② 画像データの取り込みに関する実習

デジタルカメラで撮影した画像をコンピュータに取り込む実習では、「琉大キャンパス内の『私の木』」と題して撮影を行わせた。

デジタルカメラによる撮影並びにコンピュータへの取り込みなどの実習自体は、想定した実習時間(1週)内でゆとりを持って行うことができた。特に、『私の木』の撮影においては、日頃見なれているキャンパス内で『私の木』を探し歩く新鮮さを楽しんでいる様子で、後述する学生が作成した自己HPに掲載されている内容からも推察される(図3)。



図3 受講生が作成したHPに掲載されている琉大キャンパス内の「私の木」のページ

5. 情報収集能力の養成

5-1 課題の設定

情報収集能力の養成に向けた実習課題として、「HPを利用して旅行案内計画を立てる」を設定した。

条件設定は、「本土に在住する20代の友人が懸賞で3泊4日の沖縄への航空チケット&ホテル券

(ペア券)を当選したとのメールが届き、あなたが沖縄本島を案内することになりました。そこで、あなたが沖縄の旅行案内の計画案を立て、友人にメールで提案することにしました。メールをやり取りする中で、友人が沖縄の「食」に関心を持っていることから、今回の沖縄旅行のテーマを「(仮題) 沖縄の食を満喫する」と題して計画案を立てることになりました。その計画案についてHPを利用して情報収集し作成しなさい。」と設定した。

旅行計画案は滞在日毎に計画し、案内する場所について、①内容、②お勧めのポイントを明記し、その情報が得られる③HPのURLアドレスを添付し、リンク設定することを義務付けた。尚、使用するアプリケーションソフトは汎用されているMicrosoft Wordを使用した。また、実習時間として3週をあてた。

## 5-2 指導実践

本授業は、前述のとおり家庭に関する各学科における情報に関する基礎科目として位置付けられている「家庭情報処理」の指導能力の養成を目標としている。課題設定においては、高等学校「家庭一般」の一項目である「食」をテーマとしたこともあり、学生も関心をもって課題に取り組んでいる様子であった。それは、学生が提出した旅行計画案のタイトルである「沖縄グルメ満喫プラン」「沖縄グルメツアー」「沖縄・くだおれ3泊4日」「おきなわのんびりツアー」「沖縄初心者向け食い倒れツアー」(図4)などにも表現されている。

技術的な面では、ハイパーリンクの設定に関する操作でつまずく学生もみられたが、試行錯誤を繰り返す中で多くの学生は習得していた。

## 6. 情報発信能力の養成

### 6-1 実習内容

インターネットを活用した情報発信能力を養成することを目的とした本実習では、自己HPの開設および更新(運営)能力の習得を授業目標の柱としているが、発信するコンテンツの作成および充実も含めて指導内容をデザインした。


実習内容は、インターネット上に自己のHPを作成し、学生生活において取りまとめたレポートや報告書などをコンテンツとして掲載することとした。すなわち、自己HPを利用して、パーソナルポートフォリオの作成を試みた。

ポートフォリオとは、「一般的には、学習の過程や結果に関する成果物(小論文や絵など)を長期にわたり目的・計画的にフォルダーに蓄積させたもの」<sup>6)</sup>である。建築系の学生などは、進学や就職活動の一環として学生時代の作品集を取りまとめたパーソナルポートフォリオの作成に慣れているが、本専修の学生にとっては初めての試みである。そのパーソナルポートフォリオを今回はHP上で作成することを実習課題とした。実習時間は5週とし、本授業時間全体の3分の1を当てる計画とした。

### 6-2 指導実践

指導実践において配慮した点は、第1にHPを作成するアプリケーションソフトウェアである。

**沖縄初心者向け食い倒れツアー**



那覇空港に着いたら、その足でまずは牧志公設市場へ向かいましょう！ここは那覇の胃袋、さつとあなたの空腹をお腹も満足するはず！見たこともない魚などがたくさんいるから見るだけでも面白いよ。

私のおすすめ：道頓堀→1階で買った食材をそこで調理してもらえそう！  
<http://www.okinawa-niho.net/data/youmei/detail.php?index=R-001-035-01>

さて、お腹もいっぱいになったところで、バスに乗ってもらいましょう。市内観光回りに乗り、首里城公園へ向かいます。そこで古都首里の文化と歴史に触れてみてください。そしてしばらく散策してたらだんだんと小腹がすいてくるはず。そうしたら今度は首里のおそばを食へにいきましょう。


私のおすすめ：首里そば→手打ちの麺なんですけど、昔こそえなどが全然違う！びっくりですよ。

<http://www.2u.biz/okh.no.jp/~uraw/uraku/okinawarobo/okinawarobu.html>

そしていい具合にお腹も満たされたところで、気がつけばもう夕暮れ。そろそろお酒が飲みたいくなってきませんか？今日はちょっと料子夜願の見えるBARなんじゃないかでしょう。首里そばから車で10分程度ですが、くれぐれも飲酒運転はしないように！

私のおすすめ：Food & Bar St. Hill →広々としていてゆっくりとくつろげます。ソファの座り心地がとてもよくていい感じ。カクテルも飲めます。

<http://www.c-search.net/st-hill/>



さて、今日は58号線を北上して北部へと向かいます。車を借りるか、バスなら空車で行けます。高速に乗って小1時間ほどで北部の中心都市、名護に着きます。では早速、北部散策してみましょー！

私のおすすめ：沖縄フルーツランド→おいしいそうなおフルーツだけでなく、植物も見れる遊歩道に、沖縄の食をふんだんに盛り込んだレストランもあってGOOD。長年探していたというものもあって、長年探した沖縄にあやかりたくなっちゃうかも？ 必ず身体疲れてきますよ。

<http://www.yanbaru.net/ocofans/>

図4 受講生が作成した旅行計画案(一部)

今回は、HPを作成することが初めての学生がほとんどであったため、学生が比較的使い慣れている Microsoft Word のみを使用することとした。

第2にHPを開設するサイトである。本大学内サーバーを利用することも可能であるが、今回は無料のHPサイト<sup>(5)</sup>を利用した。その理由としては、家庭生活に身近な環境でのHP開設を行うことで、当授業が終了した後も学生自身の継続的な努力により、HPを更新していくことが可能となることを想定してのことである。

### ① HPの開設および更新

本実習では、無料HPサイトへの登録、仮パスワードの取得、パスワードの変更、トップページ(indexファイル)のアップロード、コンテンツのアップロードおよび更新について指導実践を行った。

HPの実習初日の「メールで設問」への返信メールには、「HPを作るのは難しそうなので、とても心配です。しかし、この機会に自分のHPを作れるようになりたいです。」(学生A)や「HP作成がんばります。」(学生B)といった自己HP開設に対する学生の不安感や期待感がつづられていた。

自己HPのトップページ(index)を作成し、無料HPのサイト上にアップロードした際、日頃情報収集する見慣れたサイトから自己HPが開くと学生全員から歓声が沸き起こった。

情報収集者としての立場から情報発信者の立場への転換により、開設の達成感を享受した結果であると思われる。それは学生のHPのプロフィールに掲載されている次のコメントからも推察される。

(学生A)「このHPは授業で作成しました。パソコン初心者私には、とてもとても難しい事だらけ！途中でわけがわからなくなったりもしたけど、自分でHPを開くことができて、とてもうれしいです。怠け者の私だけど、これからもちゃんとHPを作っていきたいなと思っております。」

(学生B)「授業の一環でHPをつくることになりました。HP作るのって大変です。でも達成感ありますよ！」

特に、学生Aにおける本実習前後の心境の変化は、そのことを如実に物語っているといえる。

学生のHP作成に対する不安感を軽減させることができた要因のひとつには、最初は可能な限り簡単に作成したトップページをアップロードさせたことにあると思われる。また、学生が日頃使い慣れている Microsoft Word により Web ページの作成実習を行ったことで、コンテンツの充実などに専念できたことも学生の不安感の軽減につながったと思われる。

実習時間については、当初5週を計画していたが6週となった。これは授業者の実習教材に対する事前準備の不備によるものであり、実習内容としては5週で可能なものであった。

### ② パーソナルポートフォリオの作成

自己HP作成の本実習では、トップページおよびプロフィールページの作成にとどまらず、パーソナルポートフォリオの作成を試みた。

そのコンテンツの一つが本授業で取りまとめた「〔仮題〕沖縄の『食』を満喫する」の旅行計画案のレポートである。

第2のコンテンツとして、本専修の専門科目である「生活環境論」で学生が提出したレポート<sup>(6)</sup>を取り上げ、学生が提出したレポートを Word 文書としてデジタル化し、また掲載した図表などについてもスキャナで画像データ(JPEG形式)として取り込ませることとした。

第3のコンテンツには、情報処理能力の養成に向けた実習で撮影してきた「私の木」を取り上げた。

本実習では、上記の3コンテンツを完成させアップロードするまでを目標とした。しかし、トップページのメニューには、「介護実習報告」や「教育実習報告」などを掲載させ、学生の努力目標として今後の更新に期待した。

本実習に取り掛かるとすぐに、学生から「レポートの内容は、加筆修正してもよいですか。」との質問があった。学生にとって一度提出したレポートなどを見直す機会は、これまでほとんどなかったという現実を再認識させられた。

情報発信能力の養成を目的とした本実習では、自己HPの開設・運営能力の習得並びに発信する

コンテンツの作成・充実に授業目標として設定したが、パーソナルポートフォリオの作成を通して、学生自身が過去の自分と対話し、再評価する機会を創出できたことは発見であった。

## 7. プレゼンテーション能力の養成

### 7-1 実習の内容

従来のスライド、OHP、VTRなどの映像資料を活用したプレゼンテーションに加え、パソコンや液晶プロジェクタを使用した手法は、「家庭情報処理」の授業に限らず、今後あらゆる授業や発表会などを効果的に行う上で重要となる<sup>(7)</sup>。特に、家庭科教諭を目指す本専修の学生においては、「家庭情報処理」の授業を指導するうえからもそのプレゼンテーション能力の養成が求められる。

そこで、本実習ではプレゼンテーション用のアプリケーションソフトウェア<sup>(8)</sup>の習熟および実践としての発表会を行うこととした。当初の授業計画では4週の予定であったが、実質3週となった。

### 7-2 授業実践

本実習では、プレゼンテーションに使用する素材として、前述の自己HPのコンテンツとして既にデジタル化した「生活環境論」のレポートを活用した。既存データの活用により、データ入力作業が省力化でき、プレゼンテーション用ソフトウェアの習熟に専念でき、実習作業の効率化を図ることが可能となった。しかし、前述した情報発信能力の養成に関する実習時間の延長により、本実習時間が当初の4週から3週へ短縮され、作成したプレゼンテーション原稿による発表会の時間が十分とることができず、受講生からも不満の声が上がった。

## 8. まとめ

本稿は、高等学校「家庭情報処理」の指導能力の養成に向け、大学教育における「生活情報処理」の指導内容の充実に図るため、①意思伝達能力、②情報処理能力、③情報収集能力、④情報発信能

力、⑤プレゼンテーション能力に関する養成を柱とした指導実践を行った。その結果、以下のような知見が得られた。

①意思伝達能力の養成を主目的として導入した「メールで設問」は、メールの送受信能力の養成、新たな出欠確認の方法、Excelに関する基本的知識の習得に加え、授業の回数を重ねる毎に、生徒と教師とのインターアクションを創出する手段としても大きく寄与することができた。

②情報処理および情報収集能力に関する実習においては、家政教育に関するテーマを課題設定することにより、実習に対する関心を持続させることができた。一方で、情報処理能力に関する実習教材について、データベースのデータ入力数については再考が必要である。

③情報発信能力の養成に関する実習については、比較的苦手意識を抱えている受講生の不安感を軽減するため、使い慣れたソフトウェアを使用し、見慣れたHP上への自己HPを開設することが効果的である。また、パーソナルポートフォリオの作成は、学生自身が過去の自分と対話し、再評価する機会を創出することに大きく寄与する。

④プレゼンテーション能力に関する実習については、実習の成果としての発表会が行える実習時間の確保が必要である。

今回の指導実践では、使用した実習室の設備機器上の問題でCAD実習については行うことができなかった。今後の検討課題としたい。

情報に関する指導能力の養成には、授業終了後も継続的な利用が不可欠である。幸い、本授業を契機として、受講生の多くが授業終了後も自己HPの更新（運営）を続けており、さらに本専修のHPの運営についても関心をもち始めている。学生の今後の継続的な運用を期待する。

### 謝辞

本研究を進めるに際して、「生活環境論」のレポートを実習教材として使用することに対し、承諾いただきました本専修の浅井玲子先生に心より感謝の意を表します。

### 補注

(1) 本学部の各専修・コースの学生数は小人数で



- あるため、従来の出欠確認方式に時間を要するものではなく、情報教育の授業における出欠確認の一つの形態として導入した。
- (2) 共通教育の基幹領域の科目である「情報科学演習」は、教育学部の全専修・コースにおいて履修が義務付けられている。
- (3) 学部改組前の家政学科時代の研究論文も含め、昭和47年度から平成12年までの計343論文を対象とした。
- (4) 本専修の専門科目（必修）である「家政学演習」は、各専門分野についての文献講読、卒業研究に向けての研究討議を授業内容としている。
- (5) 今回の実習においては、Yahoo! JAPANが提供している無料ホームページ開設サービスのYahoo GeoCitiesを利用した(<http://www.geocities.co.jp/>を参照)。また、同サイトは、掲載したHPが3ヶ月間以上更新のない場合、削除することになっており、学生の継続的な運用を期待した。
- (6) 本実習で教材として使用した生活環境論のレポートは、問題解決学習のよさを学ばせる試みとして、「地球にやさしい人・物・企業」と題して学生が取りまとめた内容となっている。文献<sup>6)</sup>を参照。
- (7) 本専修では、コンピュータを使用したプレゼ

ンテーション能力の重要性を踏まえ、4年次の卒業研究の論文発表会において、コンピュータ及び液晶プロジェクタを利用して発表することを義務付けている。

- (8) 本実習では、プレゼンテーション用のアプリケーションソフトウェアとして、Microsoft PowerPointを使用した。

#### 参考文献・引用文献

- 1) 文部省(2000)「高等学校学習指導要領解説 家庭編」開隆堂出版、pp.132-133
- 2) 同上、pp.133
- 3) 同上、pp.134-138
- 4) 富永大介(2001)「大講義室での出席チェックの試み -共通教育で、学生と教官のインターアクションを求めて-」琉球大学教育センター報、第4号、pp.171-174
- 5) 安和守光(2001)「ポートフォリオ評価に関する構成主義的考察 -「視聴覚教育」授業における簡易教材作成を事例として-」琉球大学教育学部紀要、第58集、pp.133-150
- 6) 浅井玲子(2001)「問題解決学習のよさを学ばせる -「生活環境論」における試み-」琉球大学教育学部紀要、第58集、pp.85-93
- 7) 鈴木敏恵(2000)「ポートフォリオで評価革命！」学事出版